



ABILITY 2.0 PRO

ABILITY Pro 徹底攻略!

その14 ついに登場! ABILITY 2.0 Proの進化ポイントをチェック

SingerSongWriterの後継としてABILITYが登場してから約2年。Ver1.5へのアップデートを経て、2016年5月「Ver2.0」へと進化します。今回は、「ABILITY 2.0 Pro」のイントロダクションとして、新機能の中から特に注目したいポイントをピックアップして紹介しましょう。なお、各機能の詳細については、今後、このページの中で解説していく予定です(文:平沢栄司)

音楽制作を強力にサポートする新機能とプラグインを追加

国産DAWソフトとして人気のABILITYが「Ver2.0」へと進化しました。定評のあるMIDIの打ち込み機能やハモリの作成も可能なボーカルエディタなどのオーディオ編集機能、64ビットエンジンによる高音質といった特徴に加えて、新しいソフト音源やエフェクトの追加、ハードウェアでも注目を浴びているステップシーケンサー機能の搭載、MIDI&オーディオの各種編集機能の強化、EDM系のオーディオループ素材の追加などなど、様々なスタイルの音楽制作に対応できるようにスケールアップされています。

注目1 音作りからミックス&マスタリングの質をUPするエフェクトが充実

ABILITY 2.0 Proには、新たに9種類のエフェクターが追加されました。今やトラックの音作りに欠かせないコンプレッサーは、ノイズゲートと統合された「COMP GATE」としてチャンネルストリップにビルドイン。実際の空間をサンプリングし、豊かな広がりや奥行きのあるリバーブを再現する「IR REVERB」、位相ズレのないサウンドで高品位なマスタリングを可能とする「LINEAR PHASE EQ」と「LINEAR PHASE MULTIBAND COMP」、その他、各トラックの音作りやミックスで活躍する「8BAND EQ」やディレイ/リバーブ系のプラグインが用意されています。

また、最大8つのVSTプラグイン・エフェクトを



画面1 チャンネルストリップにビルドインされた「COMP GATE」、高品位な「IR REVERB」や「LINEAR PHASE EQ & MULTIBAND COMP」など、魅力的なエフェクトが追加された

マウントして1台のエフェクトとして扱えるVSTトラックも装備されました。組み合わせやセッティングをプリセットとして保存できるため、よく使うエフェクトのセットアップを保存しておけば、素早く再現できるようになります。

注目2 高品位なドラム&ピアノ専用ソフトシンセを追加

プロにもユーザーが多いドラム音源の定番「fxpansion BFD」の弟分「BFD eco」と、Steinway Concert Grand Model Dのサウンドを余すところなくサンプリングしたピアノ音源「UVI Grand Piano Model D」が追加されました。

「BFD eco」は、リアルな大容量のドラムキットに加えて、スタジオで録ったような生々しいサウンドが再現できるマイキングや1,500種類のリズムパターンなど、単なるPCMのドラム音源とは一線を画するクオリティーが特徴で、従来からの「LinPlug RM V」と合わせて、生ドラムからエレクトロ系までリズムをガッチリと固めます。

一方の「UVI Grand Piano Model D」は、「ピアノ」に特化した豊かなサウンドが特徴。荘厳な楽器の表現力と温かみのあるサウンドで、アンサンブルはもちろん、特にピアノソロや弾き語りのバックアップで威力を発揮するでしょう。



画面2 新しいソフトシンセとしてドラム音源「fxpansion BFD eco」とピアノ音源「UVI Grand Piano Model D」が追加された

注目3 ドラムなどのパターンが簡単に打ち込めるステップシーケンサーを搭載

MIDIトラックの入力エディタとして、ドラムの打ち込みやシーケンス・フレーズなどのパターン入力に便利なステップシーケンサーが搭載されました。

例えば、ドラムのパートならば、キックやスネアなどのラインに並ぶ各ステップのボタンをON/OFFして発音タイミングを指定していただければパターンが組めるので、ピアノロールなどを利用するよりも素早く直感的なリズムの打ち込みが可能となります。また、各ステップでは強弱(ベロシティー)や発音時間(ゲートタイム)などの調整もできます。

やはりパターンを反復するドラムの打ち込みに

便利で、ステップシーケンサーでサクッと基本パターンを作成したら、トラック上のループ指定で繰り返しを設定するだけでベーシックなドラムが出来上がります。あとは必要に応じて、フィルインなど一部に修正を加えれば完成です。



画面3 ビンテージ・リズムマシンのように、各ステップのボタンをON/OFFして発音タイミングを指定しながら打ち込む「ステップシーケンサー」が内蔵された

注目4 ビートエディタ/ボーカルエディタがさらに進化!

オーディオをスライスしてマウス操作で簡単に編集する「ビートエディタ」にクオンタイズ機能が搭載されました。従来も手動で録音したプレイの発音タイミングのブレを補正できましたが、新しいクオンタイズ機能によってリズムを安定させるような編集が容易に実行できます。波形を切り分けて移動したり、ストレッチによって隙間なくつなぐなど、伸縮方法が選択できるのも良いですね。

一方、使い勝手の良さやハモリ機能で注目の「ボーカルエディタ」では、「ピブラートの設定」の機能が拡張され、操作性が向上した画面で自然な効果を設定できるようになりました。



画面4 ビートエディタには新しく「クオンタイズ機能」が、ボーカルエディタには進化した「ピブラートの設定」が追加された

この他にも音楽制作をサポートする様々な機能や改良が施された「ABILITY 2.0 Pro」は、既に利用しているユーザーの期待に応えるのはもちろんのこと、これからDAWを始める人にとっても魅力的な製品となるでしょう。